

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立納所小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上アクションプランのPW→GW→CWの授業形式に書く活動(自分の考えを書く、ふり返りを書く)を取り入れた授業を進めることができた。その結果、「自分の考えや思いを書く活動ができるようになった」と答えた児童が90%以上となり、授業改善が進んでいると考える。タブレットPCを用いての学習も研究発表を通して、授業のどの場面で使用すれば効果があるかを検証することができた。次年度は、児童自身が問題を解決していく授業を実践するとともに、算数科において基礎的な学力の定着に取り組んでいく。</li> <li>・毎月実施している「なかよしアンケート」をもとに、児童の学校でのがんばりや悩みを把握するとともに、児童の支援について全職員で協議することができた。いじめの対応(未然防止等)については、次年度も「いじめについて考える」授業を道徳科を中心に据えて行ったり、SCやSSWを交えた研修会を計画的に実施したりして、児童に寄り添うことができる教職員集団を目指す。□</li> </ul>
2 学校教育目標	「納所がすき!」「学校がすき!」と言える子どもの育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「心を育む活動」の充実・・・か(感じて考えて動く心づくり)</li> <li>○「主体的に学ぶ力の育成」・・・ぜ(全力で学ぶ意欲づくり)</li> <li>○「連携教育」の強化・・・つ(つながって学ぶ環境づくり)</li> <li>○「自己有用感・肯定感」の向上・・・こ(根気強くやりぬく姿勢づくり)</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員を80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・中間評価に続き、すべての教員がマイプランの成果指標を達成することができた。書く活動は、各学年の児童の実態に応じて取り組むことができていた。	A	・納所小の児童の学力を上げていくために、努力してもらって感謝している。これからも、児童の実態に応じた学習指導をお願いしたい。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
	○学習意欲と成就感を育む授業づくり	○「勉強がわかるようになった」の質問に対して、肯定的な回答をする児童を80%以上にする。	・授業や朝の時間を活用してのチャレンジタイム、家庭学習を関連させ、前年度の学習内容を含めた基礎基本の定着を図る。	A	・「勉強がわかるようになった」の質問に対して、肯定的な回答をした児童は95%以上。 ・チャレンジタイムは児童たちにとって朝の活動として定着し、基礎学力の向上に貢献している。	A	・勉強が分かるようになり、基礎学力が上がったのは良かった。 ・「だいたいあてはまる」と答えた児童の学力の向上に期待している。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、他者への思いやりや社会性を身に付け、豊かな心を育む教育活動の充実	○自分から進んでの「あいさつ」や丁寧な「言葉づかい」ができる児童を80%以上にする。	・「あいさつ運動」を実施したり、「言葉づかい」について考える授業を行ったりして、意識付けと実践化を図る。	A	・自分から進んでの「あいさつ」や丁寧な「言葉づかい」ができるようになった質問に対して、肯定的な回答をした児童は95%。 ・「あいさつ」については、声の大きさなど質の向上に向けて継続的に取り組んでいる。	A	・言葉遣いの良さや地域の人へのあいさつはよくできていると感じる。家庭でも、意識してあいさつをするよう保護者が働きかけていければと思う。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 生活部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめについて組織的対応ができていると回答した教員90%以上にする。	・毎月なかよしアンケートを実施する。生活指導協議会では、気にかけてほしい児童への支援の在り方について話し合い、全職員で対応していく。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	B	・友達を大切に過ごしていると回答した児童が全体の3分の2ほどだったが、保護者は、半数ほどにとどまった。早期発見、早期対応をするために、日頃から、児童のささいな様子の変化を見逃さず、保護者へも密な連絡を心掛けたい。	B	・コロナ禍で、学校との関係が希薄になっているように感じている。	生徒指導主事
	◎特色あるふるさと学習・体験学習の充実	○地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習を通して、「地域が好きだ」と答える児童を80%以上にする。	・生活科では「肥前町の施設を知る」学習、総合的な学習の時間には「ふるさと体験学習」を計画的に入れ、児童が郷土に興味関心をもつ授業を実践していく。	A	・地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習を通して、「地域が好きだ」と答えた児童は100%。 ・各学年の実態に応じて年間を通して「納所」のよさを見つける学習を進めることができ、地域への関心や愛着が深まった。	A	・100%は、すばらしい。学習を通じて、納所の良さを実感できているようだ。	教務主任 各担任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童を80%以上にする。	・食に関する意識調査を実施し、その結果をもとに、学級活動や保健の時間に「食の大切さ」を考える授業や栄養教諭による講話を実施する。	B	・児童アンケートの朝食喫食率は95%、保護者アンケートの早寝・早起き・朝ごはんができていないという項目では81%という結果であった。 ・給食週間に栄養教諭による講話を実施した。また、2月には4年生対象に栄養教諭に参加していただき、食育の授業を実施予定。	B	・アンケートの結果から、保護者・児童とも80%以上だったことから、日常的に食や生活習慣に気を付けて生活できているようだ。 ・中には、朝ごはんを、仕事の関係で一緒に食べられない家庭があると思うので、家庭で話し合ってもらいたい。	保体部 各担任
	○体力づくりにつながる運動遊びの奨励	○学校で多様な運動遊びを楽しむ児童を80%以上にする。	・県スポーツチャレンジの種目や運動遊びを紹介し、多様な運動に親しませる。 ・児童会活動(健康委員会)を通して、雨天時の室内での体力づくりの例なども紹介し、運動を奨励していく。	A	・全校児童の84%が、朝や昼休みなど、運動場で元気よく遊ぶことができた。また、12月に持久走大会を実施したが、11月からの1か月間、休みはほとんどの児童が積極的に練習に参加し、体力の向上に努めた。	A	・児童が自ら、休みに運動場で遊んでいて、楽しんで体力づくりができているようだ。	保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○月平均45時間を守る教職員を100%にする。	・定時退勤日を週に1日設定し、確実に取り組むよう、呼びかけていく。 ・見直しをもって早くから取り組むなど、タイムマネジメントの意識化を図る。 ・学年毎で使用データの共有化を図る。	B	・業務時間が月45時間を超える職員が数名いるが、定時退勤推進日には設定時間30分以内を守ろうとする意識は見られた。 ・提出締め切りは、きちんと守られている。児童のための教材研究や教室環境整備に時間をかけて取り組んでいる様子が見られる。	B	・先生の体調管理が心配。休みの日は、ゆっくり休んでほしい。	管理職 各担任

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○一人一台端末の活用	○タブレット端末の活用	○タブレット端末を使って指導法改善に取り組んだ教員を100%にする。	・校内研究の柱に、タブレットPCを用いた授業を1本の柱に加え、教育情報化推進リーダーとICT支援員を中心に研究の推進を図る。 ・タブレットを使用した授業を計画・実施して、効果的な活用を図る。	A	・各担任は、授業の様々な場面で必要に応じてタブレットPCを使うようになった。ハードウェアを機能の特性に合わせて効果的に使い、学力向上に役立てることができた。 ・長期休業中の宿題では、ドリル・ワーク以外にもタブレットPCの特性を生かした宿題を出したり、新型コロナウイルスによる出席停止の児童にオンライン授業を行ったりすることができた。	A	・タブレット端末を、もっと利用してもらいたい。 ・長期休業中の宿題なのに、つながらない時の対応は不十分だったように感じた。	教育情報化推進リーダー 学力向上対策コーディネーター
○特別支援教育の充実	○個に応じた教育の充実	○児童への配慮や心構えが向上したと答える教員を80%以上にする。	・校内支援委員会で、支援のあり方について見直しを図り、そのことを職員に提示し、実践を行う。 ・校内研修で、スクールカウンセラー等を講師にして支援のあり方を学ぶ研修会を行う。	A	・保護者が気軽に相談できる関係づくりに努める、個に応じた支援・指導を行うというアンケートでは全職員が達成、おおむね達成と回答した。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを必要に応じて活用することができた。	A	・一人一人に丁寧に対応していただいている。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用は、これからも継続して行ってほしい。	教育相談担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が、年度当初に設定した学力アクションプランの成果目標を達成したと自己申告できた。PW→GW→CWを意識した授業を行っており、タブレット端末の利用もさらに推進されてきた。昨年度基礎学力の定着が課題に挙がっていたので、年度当初朝の時間の工夫としてチャレンジタイムを設けた。その結果、県の学習状況調査では、4年生の算数の知識・理解面が伸び、5・6年生も平均より高かった。今後も継続して取り組んでいくようにしている。</li> <li>・学校では、毎月「なかよしアンケート」をとったり、生活指導協議会で気になる子の情報を共有したりして、共通理解をして気になることがあればすぐに対応して保護者にも連絡しているが、アンケートの結果から、保護者は少し垣根があるように感じておられることが分かった。次年度は、相談しやすい学校を目指して取り組んでいきたいと思う。</li> <li>・望ましい食生活の実施という面では、児童の啓発だけでなく、保護者への啓発の方法も考えていく必要があると感じるが、家庭によっては、難しい面もあると思う。まずは、児童への啓発をさらに高め、保護者へ広げていきたい。</li> <li>・担任のこだわりが、勤務時間を延ばしている要因の1つと思われる。児童対応の確保という面では、目的に応じているが、職員の健康面の心配がある。次年度は、定時退勤日の徹底を図ってきたい。</li> </ul>
--------------------	--